

# 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 法文学部人文学科1年

氏名: 岩元美音

授業科目名	進取の精神海外研修inベトナム
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>京セラでの研修ではセラミック生産の複雑さや難しさ、その重要性について深く理解することができた。また、ベトナム人はプロフェッショナル意識がとて強いことやベトナム戦争の影響で、ベトナム人は刹那的な生き方になるため仕事上で必要な哲学の重要性が伝わりにくいことなどを学んだ。ベトナム社会科学院では、資本主義と社会主義から社会主義に統一されたことにより、考え方やシステムの違いがあり、教育面で課題があることを知った。KIVでは農業が盛んで雨の多いベトナムにおける気象予測の重要性について学ぶことができた。また、社会主義であることやベトナム人の考え方が企業にどのように影響するのかについても知ることができた。シルク村やバッチャン焼き村、Ninh Binh Tam、HoaLu遺跡などの見学ではベトナムの伝統や自然の魅力を感じることができた。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>日本人からすると強引に思える運転、会話の声が大いことなどからベトナム人は自己主張が強いと感じた。また、街中でクラクションが鳴り響いていることから自己主張の強さを感じたが、そのクラクションは危険の合図というより、自分の存在を示し注意を促す意味があるように感じた。そして、夜の街が若者や家族で溢れ、大勢の人がテラス席で飲食をしていたり、バスの中から街を見ても外で休憩、食事をしている人がたくさんいたりしたことから、ベトナム人は人との関わりを大切にし、交流を楽しんでいることに気づいた。また、コーヒーやお茶を飲む文化、昼に長い休憩を取る文化も人同士の交流を促進していると感じた。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>私はベトナム研修を通して、考える力と行動力がどれほど大切なものであるかに気付かされた。企業に訪問した際、今聞いた話に対して自分の専門分野と関係させながら質問する仲間の姿を見て敬服した。当然、話はしっかり聞いていたが、人の話から想像力を膨らませ、話題を自分で展開させる力が自分には足りていないと感じた。まず、聞いた話を自分自身で展開させられるだけの知識や情報を蓄えることが必要だと感じた。そして、ベトナムの学生にお礼をする際も計画から準備まで主体となってくださったが、自分が常に受け身でいてしまっていることに気付かされた。自分で考えて、自分の考えを周りに言えるような行動力を養うために海外研修を含む様々な経験をしていきたいと考えた。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>私は地域社会の発展に寄与するために様々な現場に足を運びその現状を自分の目で見て感じたい。京セラの社長さんが、製品でも法律でも様々なことにおいて、それを作った意図と現場はイコールで結びついているか考える必要があるというお話をされていた。地域社会にどんな問題があるのか、その原因は何か、現場で直接話を聞き、感じる事が最も適切な解決策を見つけるために不可欠であると考え。日本社会は、裕福な人だけが暮らすやすい社会になってはいけない。国民の大半を占める中間層、貧困層の意志を反映した社会になるために現場の状況を理解し、伝える必要があると考える。そのために私は、様々な地域の活動に積極的に参加していきたいと考える。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 法文学部人文学科1年

氏名: 上川夏未

授業科目名	進取の精神海外研修inベトナム
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>ベトナムの学生と交流し、現地の生活スタイルや若者の文化を知ることができた。日本との相違点に気づかされただけでなく、国が異なっても共通し、共に笑い合える話題があると知り、国境を越えた繋がりを感じることができた。また、研修で訪れた世界遺産や寺院、博物館、ハノイ市内の様子からはベトナムの歴史と人々の暮らしを学ぶことができた。複数の国から統治されたことによって生まれた歴史や建造物は、私たちのような外国人の目から見ると美しく見応えのあるものであったが、そこで暮らす現地の人々にとっては複雑な思いがあるのだと考えさせられた。古くからの歴史や自然が残されている一方で、京セラやweather plusのような最先端の技術が活用されている現場があると知り、ベトナムの経済成長についても考えさせられる場面があった。そして、その技術を提供している日本の力も感じ取ることができ、国際協力についても学ばされた。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>ベトナムでの生活を通して日本を客観的に見つめることができた。普段の何気ない生活の中では気が付くことができない日本の良さとその反対に日本に足りない側面を感じられた。日本人は「おとなしい」「謙虚」という言葉で表現されることが多いが、今回の研修中にも実際にベトナムの学生から日本人はおとなしいと言われたことがあった。また、京セラを訪問した際にも社長さんが日本人とベトナム人の違いについて言及する場面があった。これらのことを踏まえベトナムの街中の様子や人々の行動について考えると、彼らの行動には自己主張の強さが現れ、皆が生き生きしているように感じ取ることができた。国際社会で活躍していくためには自分の意志を言葉で表現し、行動することが重要になるため、私自身もこれまでの生活を振り返り、改善しなくてはならないと気づかされた。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>研修に参加したことにより海外へ行くことや外国人と交流することへの抵抗や不安が小さくなり、より多くの国や場所を訪問し、自分の経験値を高めたいと思えるようになった。私はこれまで、自分の言語能力や行動力の低さから自分に自信を持つことができず、海外研修をはじめとした様々なチャンスを逃してきた。しかし、今回の研修では実際に日本語が通じない環境で生活することができただけでなく、現地の学生や企業の方と交流することができたため、少しではあるが自分に自信を持てるようになった。ベトナムの学生が翻訳機を使いながらも必死に日本人学生とコミュニケーションを取ろうとする姿は印象的であった。ベトナムで見聞きしたものの、研修を通して出会った人々から非常に良い刺激を受けることができたため、今後の学生生活や海外経験に対するモチベーションの向上につながった。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>研修を通して最も強く感じたことはコミュニケーションをとることの重要性である。たとえ異なるバックグラウンドを持っていたとしても、お互いの意志を伝え合うことができれば互いに理解し合うことができるため、語学を学ぶことは不可避だと痛感した。私自身、日本語以外の言語をほとんど話すことができないため、今後はこの課題を見直していく必要があると考えている。また、言語を学ぶと同時に日本や世界の歴史、時事についても学習していこうと思う。今回の研修を通して世界を知る面白さを感じ取ることができただけでなく、日本のことでも意外と知らない事柄が多いと気が付くことができた。今後は国際的な活動にも積極的に取り組み、海外の文化や言語を知るだけでなく、日本の文化や技術を世界の人々に伝えることができる人材になりたい。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 法文学部人文学科1年

氏名: 竹本 悠人

授業科目名	進取の精神海外研修inベトナム
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>ハノイ博物館ではベトナムの政治的偉人に関する展示を見学した。その際、ベトナム人見学者の世代は平均的に中年層以上が多く、SNS投稿目的の写真撮影を行う若年層の姿は少なかった。一方で、肖像画という美術と政治ないしプロパガンダを結びつける重要なテーマについて博物館の展示をはじめホーチミン廟など巨大な肖像画があることからそれらの影響力の大きさを垣間見た。また肖像画や国旗などは大小問わず町中の至る所に掲示されている点にベトナムの社会主義的な政治思想と生活の密接な関係を感じることができた。KIVとWeather plusの訪問では、ベトナムのITやエネルギー産業事情について学んだ。経営・技術・人材など様々な視点の中でも、九電やベトナム政府に板挟みになりながらも両者の利害をすり合わせ安全と利益を生み出すバランス感覚や視野の広さの重要性を理解した。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>原付バイクが生活の足であり、それに付随するベトナムのスリリングな交通事情は非常に新鮮だった。日本の静かで清潔な街並みや感覚からすれば到底想像がつかない混沌とした状況である。しかし、この状況下でなお事故が起こらないという点にベトナム人固有の交通マナーやルールの解釈があるように思われる。また、ベトナムの人柄は勤勉で活気や笑顔にあふれ親しみやすい方が多い印象を受けた。研修中は彼らの配慮や気遣いに本当に助けられたため感謝すると同時に背筋が伸びる思いがした。仕事やコミュニケーション、文化交流に対する情熱や積極性あるいは自主性は私のそれを凌駕していた。以上を通じてまだまだ自分の伸びしろや楽しみがあると知り非常に胸が高鳴った。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>最も変化したことは悩みや不安に対する考え方と行動ではないかと思う。起きていないことに不安を募らせるばかりで純粋に楽しむことや真正面から取り組むことが疎かになってしまっていた。半年前の就活中に意識できていたことだが、いつの間にかその感覚を忘れてしまっていた。しかしそれを思い出すことができたのは、未知のものに対する知的好奇心とそれを共有しあえる人たちがいたからだと考える。ともにベトナム研修に参加した学生や日本語を学ぶベトナムの学生、先生方をはじめお世話になった方々など出会ったすべての人が私にとってかけがえのない縁なのだと振り返る。一緒に食べ、見聞きし、共有した経験の写真や記憶を振り返ると必ず笑顔が溢れていた。人との出会いとコミュニケーションを通じて自分の人生や時間の有限性を再認識することで、もっと前向きで素直に楽しむという自身のアイデンティティの出発点まで戻ることができた。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>私は自分の目に見える範囲の人たちには笑顔で健康でいてほしいと強く願っている。だからこそ、地域社会に貢献するためにはまずはその地域の人たちと広く深く交流する必要があると考える。自分にとって無関係な人のために頑張るよりも、明確な人やイメージを設定する方がもっと頑張れるからである。この指針にしたがって、私は地域社会を巻き込み・巻き込まれる人間になりたい。地域おこしのイベントやボランティアへの参加だけでなく、日常生活の中でも積極的に人と関わりたい。例えばお店の人とのコミュニケーションでも挨拶や雑談一つで笑顔や親近感が広がるのではないだろうか。明るく楽しいだけがすべてではなく、時には悩み不安になる時間も必要かもしれない。そのときも親しい誰かがそばにいてくれるという安心感が救いになるのではないだろうか。したがって、私は自身を中心ではなく媒介として地域社会に飛び込みさまざまな人を巻き込み・巻き込まれる中で、笑顔で楽しみつつ共に困難を乗り越えるような真の地域活性や社会をつくりたい。</p>	

# 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 法文学部人文学科1年

氏名: 成田爽花

授業科目名	進取の精神海外研修inベトナム
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>私は本研修を通して、何故近年越国がこれほどまでに経済発展しているのかを多角的に考えることができた。例えば、日本では博物館・美術館とは、なにかしら学習の意味合いが強いように感じるが、Hanoi Museumに訪れた際には、十代から二十代の若い世代が美術品や歴史的展示物等に親しみ、賑わっていた。その背景には、日本と越国におけるFacebookやInstagram等SNS投稿に対する社会的な価値観の差異ではないかと推測した。また、上記以外にも京セラやKVCへ訪問した際には、現在の越国の若年層が最前線に立ち、様々なものづくりや最新技術等に挑戦していることや、自己主張を重要視すること等様々な面において、越国を急速に発展させている要因を見ることができた。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>越国、特に首都ハノイに訪れた際に人と人の物理的・精神的距離の近さが最も印象に残っている。現代日本においては、地域の発展具合と、人との距離感は比例的だと感じる人が多い。しかし、越国においては、首都ハノイをはじめとした多くの地域で、住人と住人、もしくは他国からの観光客に対しても、多くの住人はあくまで対等に会話したり、交渉をしたりしているように感じた。加えて、主に若年層の住民と観光客が運動や談笑、歌唱等様々な活動を屋外で自由に行うことができることで、息苦しさを感じさせず、高齢層がその様子に寛容であるが故に成立していた様に見えた。公園での様々な運動の禁止をはじめとして何かと制限のかかるようになってきている日本も、意識すべき寛容性なのかもしれない。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>私は、本研修前後で越国へのイメージが大きく変化した。本研修以前、ネット等で見た越国に衛生観念や食文化、政治思想等様々な部分に不安を抱いていた。しかし、外で談笑や運動を楽しむ姿は越国の活気あふれる姿を体現し、京セラに訪れた際に拝聴した、越国人は日本人以上に仕事へ貪欲で、技術を磨き転職する気質を有していること等様々な越国の現実を知った。越国には越国唯一の強みがあることを実感したと共に、二次元的に入手した情報を判断の全てにすることの危なさも同時に痛感した。また、自身が法学を学び、より事実に近い中立的視点を重視している為先入観や偏見を深く考えるようになったことは本研修で最も成長した部分であると考えている。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>本研修を通して、私は越国の魅力や活力は、一面的に説明できるものではなく、幾重もの要素が互いに影響し合い、相乗効果的に発展しているのではないかと推測した。それは日本乃至地域社会にも当てはまることであり、我々は他の専門分野や、時代と場所に捕らわれない柔軟な姿勢で自身の専門分野を意識することが非常に重要であると考えている。本研修期間、私は様々な場面において自身の専門である法を意識し考えた。しかし、政治、文化、農業、工業等他分野との関係を意識せずに法を極めることは全体の発展という面において不適切であり、それらを意識した上で自身の法律分野に焦点を当て磨くことは今後における私の課題であり、目標であると考えた。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 法文学部人文学科1年

氏名: 松清日向子

授業科目名	進取の精神海外研修inベトナム
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>京セラ工場見学、KIVと連携するweather puls、JICAベトナム事務所などを訪れ、話を聞くことで、日本の企業や団体がどのようにベトナムと関わっているのかを知った。中学校を訪問したり、ベトナム人学生と日々の行動を共にし交流した。ベトナム人学生との交流は特に、ベトナムの文化理解につながり、また、ベトナム人学生の日本の文化や日本語への学習の姿勢や、異国で活躍する日本人の話では、彼らの進取の精神に影響を受けた。また、遺跡や博物館、工芸村、ベトナムの街へ行き体験することを通して、ベトナムの文化や産業の実態を理解することができた。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>ベトナムの食文化に触れ、自身の目標のひとつであった、食文化に対する柔軟性を養うことができた。また、日本企業とベトナムとの関わりを見て、日本では気付くことのできなかった経営における日本との視点の違い、異なる課題があることを学んだ。特に印象的であったのは、経済発展度の違いによりベトナムでは、安全性よりも経済効果を重要視することだ。グローバル化や企業の海外進出の進む現在、日本企業と海外との関わりを実際に見て話を聞いたのは重要な学びだった。発展途上国のイメージを持っていたが、実際にベトナムで生活し、若者が多く活気がある様子を見て、ベトナムという国と連携していくことの重要性をみた。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>研修を終えて、学びへの自分の姿勢に変化があった。京セラ工場見学の際、自分の目で見て聞き、感性を養うこと、クリエイティブな力を身につけることの大切さを聞いた。これらをこれからの自分の考え方や行動に還元していきたいと思うようになったのは、心情の大きな変化であった。そして、この研修に参加したこと自体も大きな成長であったと考える。躊躇するのではなく行動に移すことで、新たな世界が見え、自信をつけることもできた。また、今回初めて海外の人と密に交流したことも成長につながった。多くの異なる背景をもつ人と関わるということは、新しい発見があり、また、世界の人と関わっていくことの意義に気づくことができた。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>新たに得た視点を地域発展の寄与に取り入れていくことが重要だと考える。博物館を訪れた際、沢山の若者がいることに驚いた。中は、学びと楽しみの場の融合されたつくりをしており、若者が博物館を訪れることはベトナムでは一般的なことだと聞いた。このようなアイデアを取り込んだ取り組みができれば、若者や子育てにも一層魅力的な街になると考える。特に異なる国の文化や考え方は、自身にとって新鮮でアイデアの視野を広げる。自分が地域社会に寄与するためには、多様な考え方を吸収することが重要だ。これからの大学生活で、様々なことに興味を持ち、積極的に行動し、自分から新たな視点を取り入れていくことを心に留めていきたい。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿兒島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 法文学部人文学科1年

氏名: 谷村 雄成

授業科目名	進取の精神海外研修inベトナム
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>今回の研修ではベトナム社会科学院やJICAベトナム事務所、京セラ、九電のような現地で活動を行う日本企業などを訪問することでベトナムと日本、延いては世界との関係を学ぶことができた。それぞれの場所でそれぞれの学習成果があったが、中でも深い学びを得られたと感じたのはJICAベトナム事務所だ。以前から青年海外協力隊には関心があり、来年から始まる社会人生活を経て得られた知識技能を糧に参加したいという願望はあったが、今回の訪問でそれがより一層明確になったと感じる。協力隊になるためには自分の力で何かを起こせる力、皆を巻き込む力、そしてどんな環境でもめげないガッツが不可欠になるとJICA職員の方が語ってくれた。これらの力と共に語学力も鍛えていくことで、近い将来まだ見ぬ人々と世界をより良くする協力ができれば嬉しい。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>ベトナムの地を歩くときは常にカメラを持ち歩いていたが、ファインダー越しにこの土地を見て気づいたことが2つある。1つは街の色彩表現の豊かさだ。年季の入った壁、ペンキで描かれた文字の羅列、派手な内装。これらの物々へ一見無頓着に塗られた色が絶妙に混ざり合い、唯一無二の世界を作り出している。こんな場所は少なくとも私の知る日本にはないし、世界でも限られるだろう。写真を撮る者にとって、この街は被写体の宝庫だ。もう1つが人々の自由さだ。路上では人々が踊り、友人と語り合いながら思い思いの時を過ごしている。カメラを向けると自然な笑顔を見せてくれる人も多かった。この街に住む人々は現日本ではなかなか見ることのできない精神的自由を持ち合わせているように感じた。この自由さは果たしてどこから来るものなのか、もっと知見を深めたいと感じた。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>この研修に参加する前、ベトナムの人や文化、国への正しい理解を深めることを目標に打ち立てていた。結論から言うと、ベトナムの現状を視認した結果生まれた更なる疑問を解決するのに一週間という時間は短かったものの、確実に正しい理解への一歩は踏み出せた。研修参加が決定してから自分なりにベトナム理解は進めたつもりだったが、やはり百聞は一見にしかず、現地で得たことは大きかった。特にその発展具合、まだまだ改善できる所はあるだろうが、街の活気と人々の若さ、熱気には目を見張るものがあった。また人々の良い意味での私の強さ、自分から積極的に行動していこうとする活気は見習う所があるし、真似していこうと感じた。このように今のベトナムへの正しい認識、そして精神性の理解がこの研修を通じた自身の変化として挙げられるだろう。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>直近の目標としては、10月にある研修報告会に向けて今回自分たちが体験し、得られたことを豊富に綴った資料を作成することで、より沢山のひとたちにベトナムのことについて理解興味を持ってもらい、来年の研修に参加したいと多くの人に思ってもらいたい。また、今回の研修の様子をSNSにアップしていた所、多くの友人からベトナムとはどんな国なのかを聞かれることが多かった。このことから想像以上にベトナムや東南アジアについて関心を持つ人は多いのかもしれないと思うようになった。よってまずは自分の友人や家族のような身近な範囲からベトナムで得られた正しい知見を広め、願わくば彼らにも実際に現地へ赴いて貰うことで、より一層多くの人々が日本とベトナムの交流に携わるようになれば良いと考える。</p>	

# 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 法文学部人文学科1年

氏名: 平山咲月

授業科目名	進取の精神海外研修inベトナム
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>ベトナム社会科学院さんでは、ベトナムと日本の関係や現在のベトナムの課題について学ぶことができた。そこでベトナムという国は国の中でも気候や民族、言語、文化が異なるため、団結することの難しさがあること。歴史的な背景から共産主義と資本主義の下で教育を受けた人々がいるため、教育の統一が難しく、教育は現在のベトナムの最大の課題であることを学んだ。京セラさんでは、会社説明や工場見学を通して、ベトナムに企業があることの強みやクリエイティブな思考の養い方を学ぶことができた。クリエイティブな思考力を養うために社長さんが普段されている習慣や考え方を直接聞く機会となり、専門である建築分野に活かしたいと思った。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>印象的だったことが2点ある。1点目は、高密度な都市計画だ。住宅がびっしりと隙間なく建てられ、細い路地が毛細血管のように巡っている。バイクや自転車は歩道に止められ、歩道と道路の境目がほとんど分からなくなっている場所もあった。2点目は、ベトナムのエネルギーで生き生きとした街並み、特に屋外空間を利用した人々の暮らしだ。例えば、お店の前の歩道に広がって椅子や机を出してご飯を食べたり、早朝や夕方に公園や大通りでたくさんの人が体操や運動をしていたり、という光景を目にした。このような路上での人々の往来や屋外の自由な活動の豊かさが街を活気づけるために重要な要素であると気づいた。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>京セラさんで工場見学をする前に、説明の中でおっしゃられた「自分から疑問を持って学びを得てください」という言葉がその後の行動を変えるきっかけになった。私はその言葉を受け身で学んでは意味がないと解釈し、その後の研修中訪れた場所で1つ以上疑問を持つようにしたり、研修後はベトナムの街並みについて自分で調べ始めたりと研修前と比べて学ぶことへの意識が変化したことが最も成長できた点である。また、発展し続けている国ベトナムの人々の生活習慣や街の雰囲気などを身近に感じる事ができ、街並みやお店と周辺の関係性など今後の設計課題を考える上で参考にしたい発見もすることができた。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>研修を通して、ベトナムの街並みの特徴である屋外空間を利用した人々の暮らしや交流は、街を活気づけるための重要な要素であると感じた。そこで今後は、ベトナムの特徴的な街並みが形成された背景や実際に歩道や公園などのパブリックスペースに人々の生活や交流が広がっていくことで生まれる効果などについてより理解を深めることで、現地で感じたことを専門分野に繋がる学びとしたい。また、研修中に訪れた場所や人々の生活、食文化に触れる中で、関心や快適さ、不便さ、様々な疑問を持った。これらの視点は、建築における空間づくりが、人々の暮らしにどのように影響を与えるかなどを考えさせられた。現地でしか得られなかったこれらの視点を価値あるものにしていきたい。</p>	

# 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 法文学部人文学科1年

氏名: 松井嘉孝

授業科目名	進取の精神海外研修inベトナム
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>研修ではベトナムのハノイ周辺を中心にベトナム社会や産業、歴史などを学んだ。一日目はホアンキエム湖の周辺を散策し、オーケストラの演奏を聞いた。二日目は琉球ガラスの製作体験をし、博物館とシルク村の見学をした。三日目は社会科学学院とKIV・Weather plusに訪問した。四日目は中学校を訪問し、ベトナムの中学生と交流した。五日目はTranf Anでベトナムの自然や文化を見て、HoaLu遺跡を見学した。六日目は京セラベトナムの工場を見学し、その後JICAのベトナム事務所を訪問した。七日目はバッチャン焼き物村を見学し、ベトナム最初の大学文廟を見学した。また研修中はベトナムの大学生と共に過ごすことが多く、ベトナムと日本のことについてお互いに教え合いながら様々ことに気づくことができた。研修全体を通じてベトナムの文化やベトナム人の考え方に多く触れることができ、ベトナムについての理解が深まった。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>ベトナムでの生活やベトナム人との交流を通じて特に印象的だったのはベトナムの活気と治安の良さの2点である。活気という部分では町の賑わいや、ベトナム人との交流から強く感じた。日本ではあまり活気があるということを感じる事が無いが、ベトナムでは特にそこに暮らす人の活気がすごいと思った。これには国の経済発展が著しいことが要因の一つではないかと感じた。また治安という面に関しては、はじめベトナムは社会主義の国ということもあり、治安はあまり良くないと思っていた。しかし公安の目が張り巡らされていることから治安はとてよく、デモ等もほとんど起きないという話を聞いた。現地に住む日本人女性の方は「夜に女性一人で歩いても危険な目に合うことは少ない」とおっしゃっていた。研修に参加する前は社会主義に対して何となく怖いイメージを持っていたがベトナムに行ってみてそのイメージが変わった。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>研修の前後で最も成長したと思う点は仕事に向き合う姿勢についての考え方が変わったと思う点である。今回のベトナム研修では京セラやKIV、Weather plus、ベトナム社会科学学院、JICAなど社会人の方と多く関わる機会があった。このような人たちと関わる中で将来自分が仕事をする際にどのような考え方を持っておく必要があるのか、社会で活躍されている人たちはどのような考えを持っているのかを知ることができた。特に京セラのフジハラ社長がおっしゃっていたことに「クリエイティブの仕事」というものがあったが、AI時代を生きていく中で非常に大切な考え方だと感じた。またKIVでは相良さんから「どんどん挑戦すること」の大切さを教えていただいた。実際に社会の第一線で活躍されている方の考えを知ることができ、自分自身もこのような考えを大切にしながら仕事をしていきたいと思った。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>今回ベトナムに行ったことでベトナムの文化やベトナム人の考え方について多くのことを学ぶことができた。これからの日本はベトナム人を始めとした外国人が観光や仕事などで増えてくると思う。その際に今回学んだことを頭に入れて彼らと接することを忘れないようにしたい。外国人をはじめとして多様な人がのびのびと暮らし、活気あふれる地域となるようにするためにはお互いの文化・考え方を理解する必要がある。異なる文化を受け入れることができるようにこれからも様々な文化を学んでいきたいと思う。またベトナムの学生が日本のことを好きだと言ってくれることが私自身は非常に嬉しかった。これからも日本のことを好きでいてくれるように自分ができる努力をしていきたいと思った。</p>	



# 学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所 属(学部(研究科)・学年): 法文学部人文学科1年

氏 名: 山田優人

授業科目名	進取の精神海外研修inベトナム
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>ベトナム派遣を通して、ベトナムの教育は北部と南部での思想の違いから複雑化していると知った。ベトナムはかつて北部と南部それぞれを植民地とした国が異なり、受けている教育思想が異なる。それにより、教師によって思想が異なり、学校によって教材が全く異なるため、教員は転勤となるとその地域や学校の教育について1から勉強を始めなければならないという現状がある。このことから、歴史的背景が現在の教育内容や教育の在り方に大きな影響を与えていると感じた。また、その土地に生きる人々にとって適切な教育を実践するためには、その国の文化や歴史的背景、国民性、現在の状況を理解しておく必要があると考える。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>現地での生活を通して、現地の生活のルールを受け入れることが重要であると学んだ。例えば、ベトナムでは歩行者にかまわずバイクや車が横断歩道を横切ったり曲がってきたりする。日本では歩行者を優先することやお互いに譲り合うことがルールであり、マナーとされている。しかし、ベトナムではそのようなルールやマナーは通用しない。これは、日本人にとっては理解しがたいことであると考え。しかし、自国の価値観で他国を捉え、自国が正しく、他国が間違っていると捉えてはならず、それは単なる「違い」なのであり、違いを受け入れて生活することが重要であると考え。これは、他国の人々と良好な人間関係を構築するためにも重要なことであると考え。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>私が研修前と研修後において最も成長したことは、柔軟かつ寛容な心で違いを受け入れることができるようになったことと、好奇心が育まれたことであると考え。現地では、私が横断歩道を渡っているにもかかわらず、バイクや車が私の方に迫ってきたり、クラクションを鳴らされたりした。ベトナムと日本では、交通ルールなどの小さな部分から、教育体制や社会制度など、大きな部分まであらゆる側面において違いがある。そのように多くの違いがある環境の中で生活したことにより、自分の価値観を正当化し、異なる考えや価値観に抵抗を抱くことが無くなったと考える。また、現地で活躍される日本人の方々の働いている姿を見て、話を聞いたことにより、何事も努力し挑戦することの大切さを学んだ。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>地域社会の発展に寄与するために今後取り組んでいきたいことは、より多くの「違い」を経験し、その「違い」にある背景を理解するために努めること、そして、語学をはじめ、私の専門分野である教育について深く学ぶことである。地域社会を発展するためにはその地域の現状と背景について深く理解することと、自己との違いを受け入れる寛容さが求められる。そのため、日頃から生活習慣や文化、価値観など、さまざまな側面において自分と異なるものに出会い、違いを受け入れる柔軟かつ寛容な心を養いたいと考える。また、高い英語力を身につけ、日本人だけでなく海外の人とも積極的にコミュニケーションをとりたいと考える。さらに、国内外の教育とその背景について学ぶことにより、さまざまな課題を抱える環境においても理想の教育を実現することができる力量をもつ教員を目指したいと考える。</p>	

# 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 法文学部人文学科1年

氏名: 山根 豊人

授業科目名	進取の精神海外研修inベトナム
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>研修先では、ベトナムの文化や習慣、そして日越関係や日越の交流について学んだ。具体的には、Trang An自然環境やHoaLu遺跡の見学、バッチャン焼き物村の見学等では、ベトナムの歴史や文化、さらには世界に誇るベトナムの魅力について、実際に肌で感じ、目で見たことによって学ぶことができた。また、フーシェンでの中学生との交流を通じて、言葉の壁を越えた交流の大切さ、言葉が通じないことから生じる交流の難しさについて実感することができた。そして、ベトナム社会科学院や京セラベトナム、JICAベトナム等の表敬訪問をしたことにより、日越が非常に交流が盛んであるという事実を実感したと共に、日越が将来にわたって交流を継続していくことの重要性について学ぶことができた。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>現地での生活を通して気付いたことは、ベトナムの人々の温かさである。ハノイ市の旧市街を散策しているとき、様々な現地の方たちと交流する機会があった。その人たちの中には、怖そうな顔をされた方や奇抜な容姿をされた方など、日本では少し話しかけづらいなと感じてしまうような人たちもいた。しかしながら、そのような方たちも実際に話しかけてみると、例外なく、明るく、そして優しく接してくれた。このような体験を通じて、ベトナムの人々は、ベトナム語を話すことができない人たちに対しても、温かく接してくれる素晴らしい方たちであると感じた。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>私は、今回の研修を通して、知らない人とコミュニケーションを取る能力を成長させることができたと感じた。私は、研修に参加する前は、話したことのない人には自分から積極的に話しかけることができずに終わってしまうということが多々あった。しかし、今回の研修では、現地の中学生やベトナムの学生、研修員等、多くの人たちと話し、交流する機会が設けられた。それらを経験するにつれて、知らない人であっても、自分から話しかけることができるようになった。それに伴い、自分が疑問に思い、気になったことについては積極的に質問することができるようになった。具体的には、ベトナム社会科学院や京セラベトナム等の場において、自分が気になったことについて、自ら質問することができた。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>私は、地域社会の発展に寄与するため、他の価値観を否定せず、積極的に受け入れていくことの必要性を伝えていきたいと考えている。京セラベトナムの社長がおっしゃっていたが、ベトナム工場に派遣された日本人は、日本のやり方に固執するということを聞いた。しかし、ベトナムの成長速度を見ると、日本のやり方に固執することが必ずしも正しいとは言えないと感じた。そこで、地域社会を発展させていくためには、今までの価値観に固執することなく、新たな考えや価値観を取り入れることが必要であると考え。最初から新たな価値観を否定しては、既存の価値観とどちらがより良いのか取捨選択することもできない。そのため、まずは新たな価値観を受け入れていくことの必要性について、伝えていく必要があると感じた。</p>	